

第二九回東海財界倶楽部例会開催 名古屋入国管理局長を招いて



例会の様子



藤原浩昭名古屋入国管理局長



山下三男ホクセイ会長



鄭煥星駐名古屋大韓民国総領事

一月二十二日、第二九回東海財界倶楽部例会が「アパホテル 名古屋錦 EXCELLENT」で開かれ、名古屋入国管理局長・藤原浩昭氏による講演が行われた。

東海地方で活躍する経済人などの異業種交流会「東海財界倶楽部」は、愛知県・岐阜県・三重県に拠点を有するトップ経営者を中心とした異業種交流会で、経営者同士の知識・情報の交換および意識向上の機会を設けることを目的としている。

二九回目となる今回の例会には、日本の深刻な人材不足に対応するため、政府は専門的・技術的分野における外国人受け入れの制度の在り方を見直し、昨年六月に「経済財政運営と改革の基本方針2018」（骨太の方針）において新たな外国人材の受け入れを決定。多岐にわたる問題を抱えた外国人労働者への態勢について名古屋入国管理局長・藤原浩昭氏が登壇した。

「平成元年には偽装難民の問題が大きく取り上げられましたが、外国人は限られた人数だったように思えます。しかし、現在は至る

所で外国人が見受けられ、大きく社会は変化しています。全都道府県の外国人登録者数が増えています。現在の入国管理局は、国際化に対応せざるを得ない状況となっており、技能実習法の成立などは平成の初め頃に整いました。以降三〇年ほど、増減はありましたが、ここ数年で急激に増えています。女性の社会進出、高齢者の活用など行われていますが、地方では不足を補うほどではありません。入国管理局としては、外国人労働者を中小企業などに支援できればと思っています。」

藤原名古屋入国管理局長への質問では、会員の鋭い質問に対して感心する場面もみられた。

公演の後、駐名古屋大韓民国総領事館総領事・鄭煥星氏が四月に行われる韓国フェスティバルを報告、ホクセイ会長・山下三男氏の乾杯の発声で懇親に移った。